

省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス NU2026

令和 8 年 4 月 1 日
名古屋大学

1. 基本方針

東海国立大学機構では、キャンパスのエネルギー消費削減を推進し、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組み姿勢を地域社会へ積極的に示す。本学では、この取り組み指針の一つである「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」の下に、大学全体として構成員によるエネルギー使用の合理化を推進する。

本学のエネルギー消費量は、名古屋市の業務用事業者で突出して多くなっている。また、省エネ法によりエネルギー消費原単位※を年平均 1%以上改善することが求められている。「キャンパスマスタープラン 2022」ではエネルギー消費由来の二酸化炭素排出量を 2030 年度までに総量ベースで 51%削減（2013 年度比） する目標を掲げており、この目標の達成に向けて構成員の一人ひとりが省エネルギーへの意識を高め、主体的に取り組んでいくことが重要となる。

2025 年度は、構成員の省エネに対し大きな努力及び協力を頂いたものの、記録的な猛暑・残暑等の影響により、前年度に比して名古屋大学の主要 3 団地では電気・ガスの総エネルギー使用量が 0.8%(12 月時点)増加した。また、近年の光熱費高騰によりキャンパスの省エネへの要請は一層強くなっている。

そこで、本年度の省エネ・節電活動では、これまでの地道な取り組みの徹底を継続するとともに、施設整備による省エネ・節電対策にも重点をおいて活動を行う。

※エネルギー使用量を建物延床面積で除した単位面積当たりのエネルギー使用量

2. 取り組みの対象・実施期間

対 象：本学の全てのキャンパス

実施期間：令和 8 年 4 月 1 日(水) ～ 令和 9 年 3 月 31 日(水)

昨年度は、記録的な酷暑と寒波の影響で主要 3 団地のエネルギー使用量が増加しました。今夏も猛暑が予想されますので、光熱費の抑制を図るため、皆様の創意工夫と積極的な行動を以て、省エネ推進にご協力ください。



活動成果と今年度の展望

令和 7 年度における本学のエネルギー消費実績は、総エネルギー使用量で前年度比 0.8%(12 月時点)増加しましたが、令和 6 年度の 2.8%増加と比較すると増加率は抑えられており、これは構成員の皆様の省エネ活動努力によるものです。

昨年に続き省エネ改修を進める予定ですが、令和 8 年度は新たに LYKEION 研究棟(仮称)が運用を開始するため、エネルギー消費量の増加が予想されます。

3. 省エネ・節電の重点事項

(1) 自習する教室の集約化による照明・空調のエネルギー消費削減 NEW

「自習で利用する教室」では、広い教室を少人数で分散使用する状況が見られるため、自習等で利用できる部屋を限定する。(利用を控える部屋を明示する)

(2) ドア・窓を閉めた冷暖房の徹底

実態調査から入口ドアを開けて冷暖房していた教室が約 2 割確認された。換気扇等で適切な換気量を確保しつつ※、ドア・窓を閉めて冷暖房を行うことを徹底する。

※主要な講義室では“換気扇による実際の換気量から見た定員数”を各室の教卓上に明示しています。入室者数が、この定員数を上回る場合は、換気扇に加えてドア・窓開けによる換気を併用して実施してください。他の部屋ではドア・窓開け換気の必要性を適宜判断ください。

(3) 空調始動時の極端な空調温度設定の抑止

極端な空調設定温度となっている状況が散見されるため、原則、冷房 27°C/暖房 20°C とし、これより極端な温度設定にしない。室内環境を勘案して設定温度を変更した場合は、必ず元に戻す。

※以下の新営・改修建物は、省エネと快適性の両立に配慮した ZEB 仕様となっています。

- ・工学部 8 号館北棟(Nearly ZEB)
- ・工学部 9 号館(Nearly ZEB)
- ・LYKEION 研究棟(仮称)(ZEB Ready)

4. 省エネ・節電の定着事項

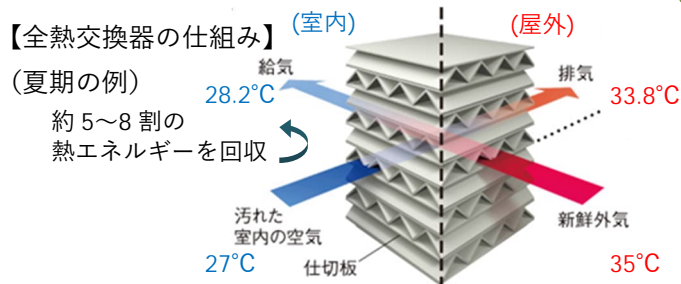
(1) 空調換気扇（全熱交換器）の適切な運転モード選定 NEW

教室や居室に設置されている空調換気扇（全熱交換器）は、「自動」モードを選択するとともに、利用状況に合わせた風量（強・弱）とする。

※運転モードに「自動」がない場合は、冷暖房時は「全熱交換」を、それ以外は「換気」を選択してください。室内が暑く外気温が低い場合は、「換気」モードにより外気で冷房ができます。



空調換気扇(全熱交換器)とは
冷房・暖房時に換気によって室
から捨てられる冷気や暖気と室
内に取入れる外気を熱交換しな
がら換気するもので、主な省エ
ネ機器の一つです。



出典) ダイキン工業 <https://www.ac.daikin.co.jp/va/kinou1/single>

(2) 共用スペースの適切な空調温度設定 NEW

冷暖房にかかる光熱費を抑えるため、自習等で利用する「共用スペース」では適正温度を遵守し、過度な冷暖房は控え、退室時のスイッチ OFF を徹底する。

(3) 昼休み等の不在時及び長期休暇などにおける節電

昼休み消灯を積極的に行うとともに、不在時、退勤時に不要となる照明や空調の消灯・停止、長期休暇の際のパソコン電源停止に努める。

(4) クールビズ・ウォームビズの徹底

夏季は暑さ対策として、清涼感のある服装（ポロシャツ等）を心掛ける。

冬季は暖かい服装を心掛けるとともに、ひざ掛けなどを使用して、過度に暖房に頼らないスタイルを取り入れる。

(5) 室温の目安と空調集中制御

空調エネルギー消費量抑制のため、クールビズ・ウォームビズ推進と併せて、冷暖房は室温の目安を参考として適切に使用するものとし、東山地区の一般居室については空調集中制御を実施する。

1) 冷房時の室温の目安：27℃（集中制御の下限値：26℃）

暖房時の室温の目安：20℃（集中制御の上限値：23℃）

2) 1日5回、定時の消し忘れ防止制御を行う（後押し復旧可）。

※室温の目安については学生・教職員等の健康管理や安全管理に十分にご留意頂くとともに、実験等で特別な設定が必要な部門を除くなど、利用状況にあわせて運用ください。

※省エネ性・快適性・生産性を考慮し、冷房時及び暖房時の室温の目安を28℃から27℃、19℃から20℃に緩和しています。これらの新しい温度設定を遵守し、省エネと快適な環境の維持にご協力ください。

(6) 最大需要電力の抑制

電力の最大使用が見込まれる時間帯の電力使用を可能な限り抑制し、電力使用の平準化を行う。（照明の消灯や実験実施時間帯の時間シフト）

最大使用が見込まれる時間帯：東山 13:30～15:00

鶴舞 10:30～12:00 および 13:30～15:00

(7) 長時間稼働機器の電力消費削減の徹底

24時間運転している実験装置、パソコン周辺機器などの運用方法を見直し、不必要な電力消費を可能な限りなくす。

(8) デジタルインフラの適切な運用

研究室や組織内のサーバーの機器類については、学内のクラウドサーバー利用への移行を図る。また、機器集約化や使用頻度の低い機器の停止を検討する。

5. 日常的な省エネ・節電行動

以下を参考に、構成員で日常的に取り組む。

○主に大学として取り組むこと
☆主に各部局等が組織として取り組むこと
◇主に学生・教職員等が自ら取り組むこと

(1) 一般事項

- ・構成員に省エネ・節電活動の重点期間中であることを周知徹底する。<○☆>
- ・部局内で省エネパトロールを実施する。<☆>
- ・空調を使用する講義室は、連続使用となるカリキュラムを工夫する。<☆>
- ・使用しない実験機器、IT 機器等の電源 OFF、電源プラグを抜く。<☆◇>
- ・トイレの暖房便座は夏季(6~10月)電源オフ、冬季は適正温度にする。<○☆>
- ・長期休暇の際は、不使用のパソコン等の電源 OFF。<○☆>

(2) 照明設備

- ・不在時または帰宅時の消灯を徹底する。<☆◇>
- ・照明器具を間引いて点灯する。(蛍光灯約 40W/本の省エネ・節電効果) <☆◇>
- ・明るい時間帯はブラインドの角度調整等により消灯に取り組む。<☆◇>
- ・ランプおよび照明器具を清掃する。<☆◇>
- ・授業や会議終了後には消灯する。(講義室 45 分消灯で照明電力の約 6%省エネ) <☆◇>

(3) 電化製品

- ・フリーザー、電気ポット、冷蔵庫は、集約化して使用台数を抑制する。 <☆◇>
- ・帰宅時など電気製品を長時間使用しないとき主電源を切る。<☆◇>
- ・スイッチ付テーブルタップの設置を徹底する <☆◇>
- ・パソコンの省エネ設定（スリープモード、休止設定）を行う。<☆◇>
※ノートパソコンは、夜間や休日にはバッテリーの発火防止のため電源OFFしてコンセントを抜く。
- ・短時間パソコンを使用しない場合、小まめにディスプレイを消す。<◇>
- ・長時間パソコンを使用しない場合(2時間以上席を離れる時など)は、シャットダウンする。(モニタ電源も合わせて切ると約 20Wの省エネ) <◇>
- ・冷蔵庫の中身の整理、適正な温度設定を徹底する。<☆◇>
- ・電気ポットは使用時のみ通電する。<☆◇>

(4) 空調・換気設備

- ・窓を開ける等して空調機に頼らないよう心掛ける。<☆◇>
- ・夏季のクールビズ/冬季のウォームビズと室温管理を徹底する。
(冷房温度 1°C緩和で空調エネルギーを約 10%省エネ) <☆◇>
※冷房温度 1°Cの緩和で夏季電力使用量の 0.8%削減に貢献します(東山地区)
- ・サーバー室の空調設定温度を見直す。<☆◇>
- ・夏季にブラインド等を適切に調整し、日射熱の侵入の抑制に努める。<☆◇>
- ・室温管理は、空調機の設定温度ではなく、温度計等により行う。<☆◇>
- ・長時間部屋を離れるときは空調停止を徹底する。<☆◇>
- ・空調の使用時にドアや窓の不要な開放をしない。<☆◇>
- ・授業終了後、会議終了後に空調を停止する。<☆◇>
- ・対流促進のために(サーキュレーターとして)扇風機等を活用する。<☆◇>

- ・空調運転時は全熱交換機を全熱交換モードもしくは自動運転とする。<☆◇>
- ・電気ヒーターの使用を控える(エネルギー利用効率が悪い)。<◇>

(5) その他

- ・大電力実験は電力ピーク時間帯(13時～16時)を避ける<☆◇>
- ・ドラフトチャンバの開閉窓は、不在時に閉鎖又は最小開口とする。<☆◇>
- ・ドラフトチャンバの電源 OFF できるものは、実験終了後 OFF とする。<☆◇>
- ・ドラフトチャンバで使用後の試薬などを保管しない。<☆◇>

6. 施設整備・管理の取り組み

(1) 部局等と連携した省エネソリューション活動の一層の推進

部局等からの省エネ対策の相談、計測およびデータ分析、更新計画の立案を本部等が支援し、部局等の自発的な省エネ対策の促進に努める。

※省エネ提案箱はこちら

<https://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/05naibu/05information/shouene/index.html>



(2) 空調・照明設備の更新

確実かつ速やかにエネルギー消費削減成果をあげるため、空調・照明設備の更新を計画的に実施する。

(R8年度：理学館、IB電子情報館南棟の空調更新を予定)

(3) 建物整備の省エネ性能強化

建物を新增改築または大規模改修する際は、ZEB(Net Zero Energy Building)としての整備を基本とし、太陽光発電設備の設置を積極的に導入する。

(R8年度：東郷研究棟改築、LYKEION研究棟(仮称)新築、先端技術共同研究施設改修などを予定)

(4) 太陽光発電のキャンパス内導入促進

太陽光発電の導入は、新営・改修建物で進めるとともに、将来の大規模導入に向けた技術的調査を継続的に実施する。

7. フォローアップ

本指針は、今後も本学の節電状況や社会情勢の変化等に応じ、キャンパスマネジメント推進本部会議において、対策の追加、見直し、決定を行い、学生、教職員等へ周知することとする。また、本指針の実施内容の結果等については、実施期間の終了後に確認・公表を行うものとする。

【参考】 これまでの主な省エネアクト重点項目



省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス NU2025 の取り組み実績

1. 全学の取り組み

(1) 省エネマインドの醸成

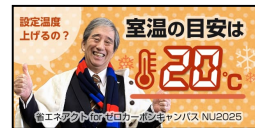
- ・令和 5 年度に決定した省エネアイデアコンテストのキャッチコピーを継続し、夏期及び冬期に省エネ啓発ポスターを英語版含めて作成した。
- ・空調リモコン用ステッカーを作成し、収容人数が多い講義室等に掲示した。
- ・X (旧 Twitter)、Facebook、学内のデジタルサイネージを活用し、本学の省エネ活動の取組みを広く周知した。
- ・GW 及び年末年始等の連休期間中において、省エネ対策と休暇中の安全確保について構成員によびかけた。



省エネポスター 2025 年 夏・冬



節電ポスター



空調リモコン用ステッカー

(2) 講義室の調査

- ・法・経本館共用館及び IB 電子情報館における定員 150 人以上の講義室 11 室を対象に、講義中の使用状況を確認した。

調査期間:令和 7 年 7 月 1 日(火)~7 日(月) の平日(冷房時)

確認項目:使用人数、空調機 ON/OFF、空調設定温度、換気扇(全熱交換器) ON/OFF、全熱交換器の運転モード、扉の開閉、照明の点灯状況

<調査結果>

空調設定温度を 27°C 以上としている部屋は全体の約 2 割であり、残り約 8 割は室内温度の目安 27°C に対し、低い温度で運用していた。 BAD

授業を行っていた多くの部屋では換気設備を運転し、適切な換気量を確保していたが、一部の部屋では換気をしていない部屋もあった。 BAD

冷房は、全体の約 8 割で扉を閉めて行っていたが、約 2 割は扉を開けていた。 BAD

全熱交換器の運転モードに関し、「自動モード」もしくは「全熱交換モード」の選択状況は、約 4 割が適切なモード選択で運用していた。 GOOD

照明は、受講者が少ない講義時、学生の自習時に必要箇所のみを点灯させており、節電の意識が感じられた。 GOOD

本調査結果を踏まえ、引き続き啓発活動を行う。

(3) 空調改修

- ・理学館の空調設備 23 系統を更新した。空調エネルギーの約 5% (54 MJ/年) 削減を見込んでいる。

(4) 建物改修による ZEB 化

- ・大規模改修計画にあたり、学内建物の ZEB 化を図っている。
- ・工学部 8 号館北棟、工学部 9 号館では Nearly ZEB、LYKEION 研究棟(仮称)の設計では、ZEB Ready を達成している。



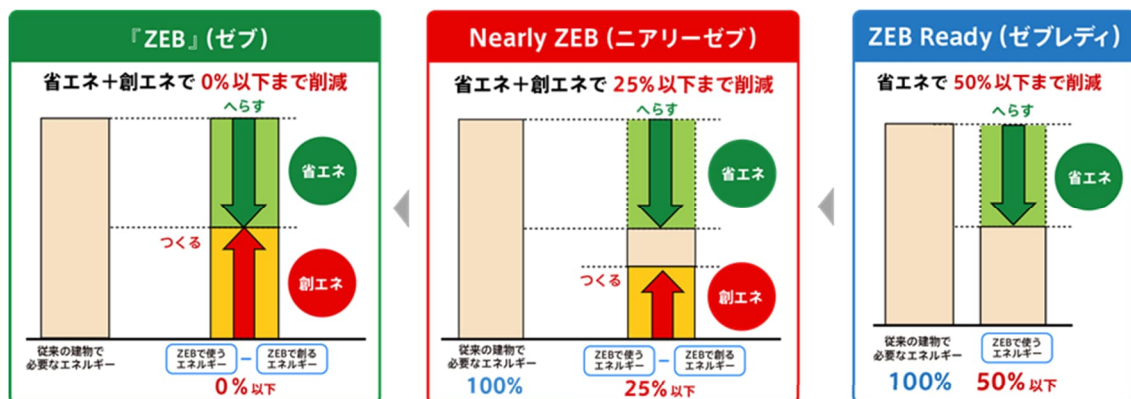
工学部 8 号館北棟



工学部 9 号館



LYKEION 研究棟(仮称)



出典) 環境省 : <https://www.env.go.jp/earth/detail/01.html>

ZEB の定義 (参考)

2. 部局の取り組み(NU2025 グッド・プラクティス)

「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス NU2025」のもとに、各部局で取り組まれた省エネ・節電活動のうち、他部局でも参考になる好事例や部局特有の問題の解決に向けて積極的に取り組まれた内容を、グッド・プラクティスとして紹介します。

理学部の取り組み

- 省エネ改修
 - ・修繕時には、部局予算により LED 照明化を行った。

農学部の取り組み

- 実験装置廃棄及び更新による使用電気料金削減
 - ・研究室毎に実験機器等の更新を行い、消費電力削減に努めた。

研究所地区の取り組み

- 換気抑制
 - ・常時換気を見直し、換気設備の運転を適正化した。
- DK コネクトによる空調利用の省エネ化検討
 - ・フィールドテストの一環で、C-TECs でダイキン工業(株)の協力のもと遠隔自動省エネ制御機能(DK コネクト)による消費電力削減効果の検証試験を開始した。

情報学部の取り組み

- 節電意識の醸成・周知
 - ・早期退勤、リフレッシュ休暇・年末年始の休暇取得やテレワークの実施を促して、節電に努めた。
 - ・省エネ啓発ポスターをエレベータ内・各階乗降口、講義室・セミナー室に掲示した。また、講義室の空調操作パネルに省エネ啓発ラミネートを貼り適正な温度管理を呼びかけるとともに、警備員による施錠時に適正温度設定に戻した。

文系地区の取り組み

- ピークシフト
 - ・電力ピーク時間帯に自習室の使用を控えるよう掲示を行い、ピークシフトに努めた。

名古屋大学の省エネ・節電の取組み実績

項目	内容	摘要	備考
1	「省エネアクト」制定	通知日：R7.4.1 期 間：R7.4.1～R8.3.31	全学
2	「連休期間中等の節電行動」の実行	通知日：R7.4.21 期 間：R7.4.29～R7.5.6	全学
3	夏期における節電チャレンジ 省エネ啓発ポスターの掲示	通知日：R7.6.9 期 間：R7.6.19～R7.9.30	全学
4	NU Portalを活用した省エネに関する総 長からのよびかけ	NU Portalランディングお知らせに総 長パネル 掲示期間(夏期)：R7.6.16～R7.9.30 掲示期間(冬期)：R8.1.22～R8.2.28	全学
5	講義室使用状況調査（夏期・冬期）	150人以上収容可能な講義室の空調 機、換気設備、照明の使用状況を調査 夏期：R7.7.1～R7.7.7 冬期：R8.1.19～R8.1.23	IB電子情報館、 法・経本館共用館
6	デマンド抑制に対する緊急省エネ・節電 に関するメール通知	発出日：R7.7.4、7.22、7.24、7.29、 7.30、7.31、8.4、8.5、8.6	全学
7	「夏期連休期間中等の節電行動」の実行	通知日：R7.8.7 期 間：R7.8.9～R7.8.17	全学
8	冬期における節電チャレンジ 省エネ啓発ポスターの掲示	通知日：R7.11.28 期 間：R7.12.1～R8.2.28	全学
9	「冬期連休期間中等の節電行動」の実行	通知日：R7.12.22 期 間：R7.12.27～R8.1.4	全学
10	生協省エネコラボの実施	1) カイロ配りの乱 配布日：R8.1.19、1.20 2) あったか料理大作戦 提供日：R8.1.19～R8.1.30	生協各店舗
電気01	本部3号館照明の間引き(廊下、階段、会 議室1・2、電話交換機室)		本部
電気02	照明のLEDへの更新	毎年実施	本部
空調01	空調リモコンにステッカー貼付	室温27℃目安(夏期)	講義室等
空調02	空調リモコンにステッカー貼付	室温20℃目安(冬期)	講義室等
空調03	講義室空調時の扉開放とりやめ	全熱交換器の風量測定し、コロナ対策 の扉窓開放したままの空調を抑制	全学
空調04	空調機の高効率機種への更新	毎年実施	本部
衛生01	トイレ暖房便座Off	暖房便座・温水Off	全学
衛生02	1、6号井戸のピーク時停止	電力ピーク時に井戸ポンプ停止	本部

【電力使用量の推移】

<東山>

括弧書きは前年度比

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
電力使用量 [千 kWh]	82,820	86,064 (+3.9%)	80,849 (-6.1%)	81,890 (+1.3%)	84,305 (+3.0%)	

<鶴舞>

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
電力使用量 [千 kWh]	47,303	45,639 (-3.5%)	44,391 (-2.7%)	44,129 (-0.6%)	44,695 (+1.3%)	

<大幸>

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
電力使用量 [千 kWh]	1,784	1,799 (+0.8%)	1,710 (-0.5%)	1,748 (+2.2%)	1,761 (+0.7%)	

【ピーク電力発生日、時間帯、ピーク電力】

<東山>

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
発生日時	8/20 (木) 13:30~14:00	8/5 (木) 14:00~14:30	7/1 (金) 14:00~15:00	7/27 (木) 14:00~15:00	7/23 (火) 14:00~14:30	7/7 (月) 14:00~15:00
ピーク電力[kW]	17,164	17,556	17,472	17,388	17,612	18,088

<鶴舞>

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
発生日時	8/21 (金) 11:00~11:30	8/5 (木) 11:00~11:30	6/29 (水) 14:00~14:30	7/26 (水) 16:00~17:00	8/5 (月) 11:00~11:30	8/19 (火) 16:00~17:00
ピーク電力[kW]	8,909	8,819	8,475	8,348	8,293	8,710

<大幸>

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
発生日時	8/21 (金) 14:30~15:00	7/28 (水) 12:30~13:00	6/29 (水) 13:00~13:30	6/29 (木) 13:00~14:00	7/31 (水) 13:00~13:30	7/28 (月) 14:00~15:00
ピーク電力[kW]	367	484	474	462	468	450

※最新の名古屋大学エネルギー使用量については、WEB ページをご覧ください。
<https://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/03energy/energy/index.html>

